

課題

責任ある政治行政の確立と、三期目に臨む姿勢・施策について



一般質問の中平



増田寛也知事

質問

三期目を新たなスタートと宣言し（財政の悪化により）これまで掲げた公約を大胆に変革するとしているが、財政悪化は従前より予想されたはずだ。

答弁

「増田寛也知事」国の施策に呼応し公共事業を実施した結果多額の公債残高となり4年間で一、七五〇億円の財源不足となった。一方不況による税収不足交付税の落ち込みなどで危機的財政状況となった。中央依存の姿勢を率直に反省し、向かう4年間財政構造の抜本的改革を進める必要がある。

質問

県北沿岸の現状（格差問題）は、今なお知事が約束した施策の遂行を求めているが。

**特性に着目し
地域づくりを支援する**

答弁

「増田知事」県北沿岸地域と県内陸部との格差が依然存在する。従来にも増して重要課題だ。地域資源の特性に着目し発展の可能性を最大限生かし地域づくりを支援する。また、交流・連携基盤の整備を引き続き推進する。

課題

地方自治について

質問

三位一体の改革推進と地方自治への補助金一括交付の実現を問う（県も市町村も自己責任のもと、独自の施策展開により、個性ある自治体づくりが可能だ）

一括交付金は段階的に

答弁

「知事」補助金は、地方の実情に応じた基準で、交付金化することが本来の姿と思う。一括配分という形式の自由度を段階的に高めていくべきと考える。

質問

県費嵩上げ補助金の削減は、市町村にとって不安が広まっている。

答弁

政策誘導の効果が薄れている事例もある。原則廃止の方向で、総合補助金や活性化事業調整費で対応したい。

質問

財政再建と人件費の取り扱いについて 人件費を聖域とせずとしているが、給与は全国レベルで高いとはいえない。職員の志気および人材の確保に影響する、所見を伺う。

答弁

肥大化した行政組織を見直す必要がある。職員と十分協議し、共通認識の下、改革を推進したい考えである。

課題

IT施策について

質問

本県は広大だ、社会資本整備の遅れは否めない。IT技術の活用が効果的だ。主要道路沿いの携帯電話不感地域の解消を県単による積極策で。



大沼勝也地域振興部長

課題 地域振興について

質問 県内港湾の積極的活用について重要港湾4港の使用料

は他県よりも高い。低減し利用促進することにより経済効果が期待できる、所見を伺う。

雇用創出により 経済効果を発現させる

答弁 「猪俣純県土整備部長」 港湾ビジョン実現に向けたア

クションプランを年度内に策定し、定期航路の誘致などにより新たな雇用創出による経済効果を発現させたい。利用料は

県来年2月までに港湾ビジョン アクションプラン策定へ

〔7月末策定協議会設立会議〕

県は港湾ビジョン実行計画を来年2月最終を目指し策定の方向。久慈、宮古、釜石、大船渡の4重要港湾の課題と方策を具体的に示す。計画は、港湾を核としたまちづくりをテーマに、客船誘致や観光ネットワーク形成の方策などを探るもので、本計画策定のため各港ごとに部会を置くこととしている。

アクションプラン策定の方向

■ 全県版：

- ① 内陸と沿岸部を結ぶ物流ネットワークの構築
- ② 航路間と港湾間の連携などについて検討

■ 4重要港湾版：

- ① 定期航路の開設
- ② 港湾を核とするまちづくりを課題に、相手港や船舶運航業界の選定
- ③ 客船誘致、観光充実等ネットワークの形成方策を探る。

答弁 「地域振興部長」 みんながいつでも、どこでも必要な情報が得られる移動

通信が重要だ。基地局整備を行う市町村に支援するため県単独事業で対応したい。

平均的水準にあるが、荷主、船会社など関係者のヒヤリングなどを勘案し検討したい。

質問 八戸新幹線の開業に伴い、二戸市、八戸市と県北との

アクセスの整備は、歴史的・地理的・経済的にも深い因果がある。開業効果を上げるため八戸、県北へのアクセス道路を整備すべきだ。



猪俣純県土整備部長

答弁 「県土整備部長」 八戸久慈自動車

道のうち久慈市の三・二kmが供用開始されているが、残り二十七kmを整備計画区間の格上げについて国へ強く働きかけている。また、八戸大野線の隘路区間の整備を進めている。なおアクセスルートの整備促進に取り組みで参りたい。

質問 県都盛岡へのアクセス、「九十分構想」は、沿岸住民

にとって期待が大きい。今後の推進策を伺う。

答弁 「県土整備部長」 九十分構想は交流・連携促進のため

の構想だ。久慈ルートは九十九分になるなど進捗している。更なる実現に努めたい。

質問 花巻空港の利用促進策について

(この項は、盛岡タイムス所載5頁の記事をご覧ください。)

課題 教育環境について

質問 小中校の周辺環境整備(通学路、歩道、防犯灯の整備

）について伺う。

答弁 「佐藤勝教育長」 児童、生徒の安全を確保する上で重

要だ。必要性、緊急性の高い箇所から計画的に整備したい。

質問 教員の不祥事対応について、身内意識改革のための強力な対策を県に望む。

答弁 「教育長」 これまでも自覚を促し指導してきたが、意識改革について初任者研修・校内研修を充実し、強く自覚を促し使命感の高揚をはかりたい。

質問 教育と地元学の連携について地域教育推進員を配置しているが、伝統文化や風土を大切にす「地元学」の確立に向け体系的、継続的施策の推進と予算措置の裏付けが望まれる、所見を問う。

地元学の発想により 幅広い取り組みを

答弁 「教育長」 地元学は、地域からの発想や個性、資源の大切さを追求する取り組みであり充実・強化する意義がある。地域教育推進員の活動例を周知し、情報を活用し、意欲ある市町村を支援したい。

課題 地産地消について

質問 単に一次産品の地産地消の推進にとどまらず、地域教育と連携し地元学を進展させていく必要があると思う、所見を伺いたい。



佐々木正勝農林水産部長

運動を展開したい。なお「食」以外の分野、木材や花など幅広く取り組んで参りたい。
「★地元学・山根六郷の伝統芸能、雑穀文化、水車まつりが典型である」

答弁 「佐々木正勝農林水産部長」 食を通じて地域の係わりを見つめ直す取り組みであり「食の地元学」実践運動である。学校教育、健康づくりなど幅広い分野の関係者と連携をはかり地域一丸となった

県政スポット

みんなで育む 地産地消展開事業

地産地消推進運動⇒民間レベルで創意ある取り組みで、官民一体の県民運動を強力に展開する事業

- *地域の食材や伝統料理、食文化をメディアを通じて紹介し普及啓発する。
- *地場食材を地場供給の仕組みづくり（例：学校給食など）商品のメニュー開発を促す。
- *地産地消のサポーター支援：すそ野拡大により、地場産業⇔生産者⇔児童との連携交流を促進する。
- *地域の特性・特徴を踏まえた実践計画を公募・審査しモデル的集団に対し必要な経費の一部を助成。
- *対象：生産者、加工・販売業者消費者グループ、NPO法人など。

課題 環境問題について

質問 次世代へ継承するに足る環境を維持することが必要。河川の汚染は、最終的に海の汚染につながる深刻な問題である。森林を保全し、生活排水等の処理のため下水道の普及が急務。計画的取り組みを…。

答弁 「県土整備部長」平成二十二年度の計画六〇％が目標

◇ 県議会を傍聴して ◇

大川目町 畑 松 男

改選後初の定例会一般質問に、よもやの中平均君が登場することになり、期待も新たに県議会を初めて傍聴することができた。

7月4日午前傍聴団を乗せたバスは、満席で出発した。車内での話題はもっぱら均君の一般質問の話題に集中。新人初登場で緊張するだろうか。いや、選挙戦・総決起大会などで演説は実証済みだ等々。盛岡で合流の梶田会長、中塚支部長さんも加わって総勢57名であった。

増田知事を始め議事堂内の人たちは、県北沿岸の若きヒーローへの熱い期待の現れと、思ったに違いない。議場内には気のせいか異様な雰囲気があった。

さて、議事堂演壇に立った中平君の質問は、増田知事の3期目に臨む姿勢、県北地域の振興策、教育環境、防災対策等々県民生活に直結する課題について、持ち時間30分にわたり臆することなく主張し、知事始め当局の答弁を引き出した。隣りの座席に陣取った女性群の席から「若いのによくもこんなに話せるものだ、立派だ」と、わが子に思いを寄せるかのように緊張した面もちで聴き入っていた。



▲久慈・野田からの傍聴団でギッシリ

この後再質問をするなど、期待に違わぬ時間を味わいました。

さて、質問を終えたひとし君は、さすがにホッとしたおもむきで私どもを廊下に出て出迎え、一人ひとりを握手で見送ってくれた。控えめながら礼儀正しい実直さは、いつもながらの好青年に思えた。

帰りは、岩鑄と酒造あさ開きを見学した。バスの中ではひとし君の初舞台は予想以上の出来ばえだと評価し、全員で「我らがひとし君を支えて行こう」と再確認し合う機会となり、有意義な県議会傍聴団の1日となった。

会報は今後随時発行します。中平に対するご意見・ご要望などをお寄せ下さい。

中平ひとし事務所からの「お知らせ」

先の県議選で設置していましたが「後援会事務所」を、「中平ひとし事務所」とし引き続き置くこととし、専任の事務局長も配置しました。岩手県関係の各種計画書や情報誌の閲覧も出来ますので、気軽にお立ち寄り下さい。

また、要望・ご意見等ございましたらお気軽にお立ち寄りの上ご相談を戴ければ幸いです。

中平ひとし事務所

住所 〒028-0033

岩手県久慈市本町一七

電話 〇一九四―五三―〇一一

FAX 〇一九四―五三―〇三六

編集後記

7月の末日に、暑中見舞をいただいた。気がつけばとくに梅雨が明け、太陽が輝いている季節のはず。日報のコラムに「猫が風呂場のふたの上で長々と寝そべっている」と。東北は49年ぶりの低温・冷夏が心配されている。県北は早稲種かけはし・コマチが定番だ。さて、先の統一選で議席をいただき一般質問に臨み「県北が抱える政治への期待」についても、明日のくらしに希望のもてない政治は古今承けられない。やはり、知事が説く「夢県土」に託したい。

http://www.nakatai.net
e-mail:hitoshi@nakatai.net